

オニク	<i>Boschniakia rossica</i> (Cham. et Schltldl.) B.Fedtsch.	絶滅危惧 I 類
		ハマウツボ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	1年生の寄生植物。根茎は硬く太い塊状で寄生主の根を包む。茎は直立して高さ15-30cm。葉は狭3角形鱗片状で、黄褐色で密に茎を覆う。花期は7-8月。茎の長さの半分ほどの花穂を茎頂に出し、暗紫色の花を多数つける。	
生態的特徴	高山に生えるミヤマハンノキの根に寄生する。	
分布状況	本州中部以北、北海道に分布する。県内では県北の北部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県北の北部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	
		

文責:佐藤和良